会長メッセージー１

学会そのもののあり方について既存の概念をひとまずは捨てて、本当に何が大事なのであろうか、目的は何だろうか、それを実現するために何が必要なのか、について自らに問いかけると同時に真剣に話しあう必要があると思います。

研究領域においても同様のことが言えます。
“この技術を持っているからこの研究をしよう”という筋道ではなく、世界の研究の中で自分がアピールできるところは何だろうか、世界を“あっ！”と言わせる研究をするためには何をすればよいのか、必要ならば何年かけても新しい領域と技術を勉強する必要性、など真剣に考えることが大切だと思います。

こういう考えのもと、ビジョン委員会を立ち上げた。

（鈴木洋史）

会長メッセージー２

日本の薬物動態研究が世界をリードできるかどうかは、
結局は個人の能力と個人の積極性に関わっています。
各研究者が少なくとも１年に数度は丸１日を費やして、
自らbrain stormすることを薦めたいと思います。

そのことによって、日常に流される自分を見直し本来の
目標に向かって努力していく道が開かれることを願っています。
若い研究者にはこの姿勢が特に必要と思っています。
このような若手研究者の未来を開いていくためにも、私は
学会に若手研究者がより積極的に関わっていけるような道を
作りたいと考えています。若手研究者が本学会とより密接に
かつ積極的に関わることを機軸にして、日本薬物動態学会の
将来、日本の薬物動態研究の未来が開けることと信じています。
若手研究者の委員会を作ることも一つの考え方だと思います
し、若手が主体となるシンポジウムの開催など、種々のこと
を具体化していきたいと思っています。

- 13:00-13:20はじめに杉山雄一（東京大学大学院・薬）

- 13:20-13:30SpecialistからGeneralistか？；智慧の重要性
  杉山雄一（東京大学大学院・薬）
- 13:30-13:40進化生物学的鳥瞰図と“知の真空地帯”
  井上正康（大阪市立大学大学院・薬）　２５年
- 13:40-13:50企業研究者へのメッセージ
  池田敏彦（元三共㈱/医薬品開発支援機構理事）　１５年
- 13:50-14:00焦点を定めた議論をしよう！エンドポイントとプロダクト
  栗原千絵子（臨床評価刊行会）　１年半
- 14:00-14:10グローバル時代の研究と自己
  石川智久（東京工業大学大学院・生命理工）　２０年
- 14:10-14:20臨床への橋渡し研究者を目指すには
  鈴木洋史（東京大学医学部付属病院・薬剤部）　２０年

- 14:40-16:40パネル討論（途中休憩15分）

Generalistか　Specialistか

自分で経験し、多くの論文を読み自分自身で考えぬくことにより体得した事柄のどれだけが頭の中に整理され、必要な時に引き出して実際の研究、医薬品開発に活かせるかということ、言い換えれば智慧の容量が要求されている

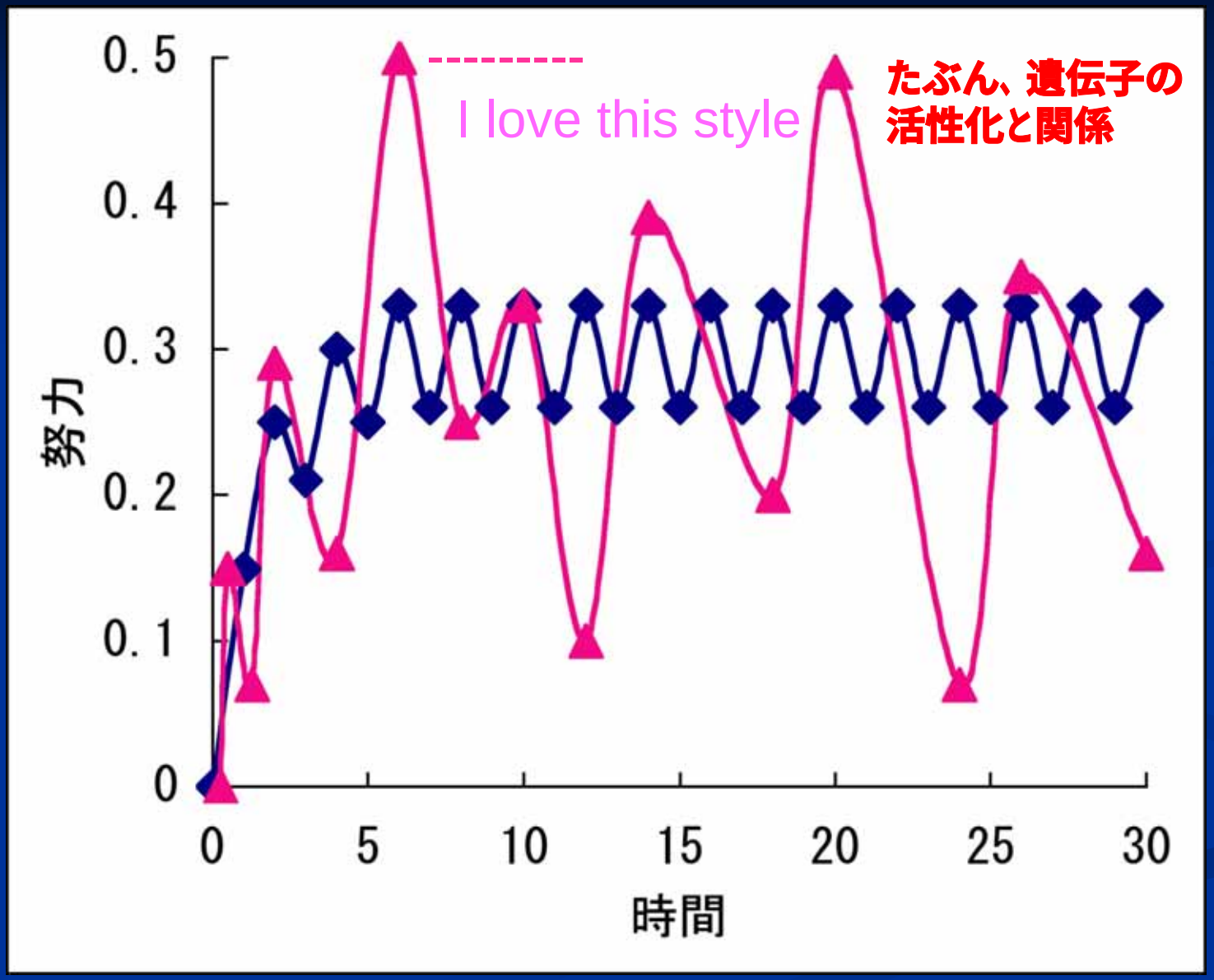
アカデミアであれ、企業研究者であれ、“質の高い研究経験を通して深いサイエンスの基盤（狭い領域でよい）を持ったうえで、俯瞰的に多くの領域を理解し統合できる研究者である”ことを望む。

言い換えれば、Specialistである経験を有したgeneralistである。

ある時期（5年程度）、徹底的なspecialistになる努力とのめり込みが必要

ある年齢まではspecialistであることを極めればよいだろう。その後、specialistに固執するのではなく、generalistであろうとする柔軟性を持つことにより、真に良い研究が展開できるし、医薬品開発に貢献できる。

目いっぱい行う経験が必要 → 自信



グローバル時代における主体性の教育

英語力
智慧、知的好奇心の増大
自分の意見を述べることの必要性
プレゼンテーション技術、質疑応答能力の獲得
会議、セミナー中の居眠りは恥ずかしい
懇親会などで、必要なときに人の話しに耳を傾けることは
　当たり前の礼儀

自分自身の価値基準がなく、周りの行動に振り回される、あわせる

べつにーーー
ええまあーーー
ーーー　みたいな

Fork in the road - どっち？

迷うときは、前向きな
道を選ぶ

(国際的な学会への
進出(1994))

ダメモト

結論

1) 将来の研究ビジョンを持つ (自分の意見、夢を語れるように)

2)これからの研究の大きな潮流を自ら発信する野望と持続性

3)他領域との積極的協力体制

4)頻繁に個人単位、組織単位でのBrain storming meetingの必要性

5)新しい概念を外に向けて発信する表現力、リーダーシップを持つ
国際的な人材になる（英語力が極めて重要）

＊ 智慧の容量を増やす

＊ 5年程度は、Specialistであるべく最大に研究にのめりこもう！

＊ １００%の負荷に近いところでの努力の積み重ねの経験が必要 (自己実現)

信条

- I am OK and you are OK
- （自分も他者も肯定すること。あるがままの自分でいること）
- It flows naturally
- Tomorrow is another day
- (今、ベストを尽くす。うまくいかなければ、また明日があるさ、と考えること)
- 日々是好日

パネル討論用

まとめー1

杉山：

- 智慧の容量を増やす
- 5年程度は、Specialistであるべく最大に研究にのめりこもう！
- １００％の負荷に近いところでの努力の積み重ねの経験が必要（自己実現）

井上：

- 社会では常識を視野に入れ、研究では非常識を友とせよ！
- 生命史を学ばない者は生命史に反逆される！
- 前例がない？・・・・ならば、前例を作ろう！

池田（企業研究者として）：

- 会社全体のプロジェクト進行計画に、企業研究者のすべてが巻き込まれている。この波に逆らうことはできないし、逆らってはいけない。
- ただ従順で従属的かつ日常性に埋没している人は伸びない。Scientistとして技量を磨いていなければ誰からも見向きもされなくなる。意見を言うときはScienceとして発言しよう。
- Scientistとして出発し、その夢やアイデアをScientific Directorとなってから実現しよう。

まとめー2

栗原：

- 研究者にとって、「プロダクト」（成果物）は命
- 何を目標とし、何を産み出すのか。共同作業者との間で、標的と焦点を定めた議論を尽くすことで、プロダクトは、より整合性と再現性のある、優れたものへと磨き抜かれていく
- 議論と共同作業を楽しむコツを身につけよう

石川：

これからの研究者に求められるものは次の3つ：

- 生命科学研究の基礎力と応用力、
- 戦略的ビジネス感覚、
- ヒューマンスキル・コミュニケーション能力（英語は国際共通語！）

鈴木：

- 個々人の個性に立脚した一つの哲学、或いは揺ぎないコンセプトに貫かれた研究が出来て初めて評価される。
- 常に“全体“を見ながら、自分の存在する意義を考え、人間としてのミッションを果たすことが大切　{社会貢献の必要性}
- 自分自身のVmaxを大きくすることが必要

パネルディスカッション

- 個々のパネリストへのさらなる質問および討論
- テーマを決めたディベート

テーマを決めたディベート

- 智慧の要領を増やす、Vmaxを大きくする
- 前例がない？　ならば、前例を作ろう
- 国際性（ヒューマンスキル・コミュニケーション能力、英語力）
- 議論と共同作業を楽しむコツ
- 企業研究者
- 女性研究者
- 社会貢献の必要性　（vs.知的好奇心、認知の欲求が駆動力）
- 前例のないこと、真にオリジナリティのあることへの果敢なチャレンジ